

第2学年 生活科学習指導案

指導者 似内織江

I 単元名 とびだせ 仁王たんけんたい I

II 単元の指導構想

1 学習指導要領に示されている指導目標及び内容

自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活ができるようにする。【内容（3）】

自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。【内容（8）】

2 教材について

1年生の学習では、主として身近な自然とかかわる活動を、地域の自然に触れながら、繰り返し行ってきた。

本単元では、主として身近な社会や人々とかかわる活動を設定し、子どもたちが身近な生活圏である地域に出て、そこで生活したり、働いたりしている人々と出会ったり、接したりする活動を通して、自分たちの生活が地域によって支えられていることを気付かせていく。本単元は2学期にも設定されており、地域と十分に繰り返しかかわることができる計画となっている。繰り返しかかわっていく中で、地域のよさを感じ、地域に対する親しみや愛着を育みながら、適切な生活の仕方をも身につけ、安全に生活することができるようにしていく。

3 子どもについて

本学級は、一人ひとりが「～やってみたい」という思いをもち、意欲をもって取り組もうとする子どもたちである。その一方で、自分の思いや願いを具体的に表していくための方法や手順などの見通しをもてずに、活動が止まったり、友達の活動に流されたりする子どもが見られる。

生活科の学習においては、思いや願いをもち続けられるような対象との出合わせ方と、友達とかかわり合いの中で見つける新たな気付きや学びを生み出すような伝え合い交流する場の工夫が必要であると考え。また、子どもの活動や思いの見取りをもとにした教師の支援の在り方を大切に、子どもの主体性をさらに高めていきたい。

4 復興教育（3つの教育的価値）との関連

1 【いきる③ 価値ある自分】

自分自身や自分の生活が地域と深くかかわり、互いに必要とされる存在であることを実感する。

2 【かかわる⑨ 仲間や地域の人々とのつながり】

幼児や高齢の人々・障害のある人々等と一緒に生活している地域社会において、互いに支え合仲間の大切さら地域の方々のありがたさを実感する。

III 単元の指導計画

1 目標

- 身近な地域に出かけ、地域の人々とかかわったり、様々な場所やものを調べたりして、それらが自分たちの生活を支えていることや楽しくしていることが分かるとともに、地域に親しみや愛着をもち、人々と適切に接したり、安全に気を付けて生活したりすることができる。
- ・ 身近な地域の人々や様々な場所に関心をもち、ルールやマナーを守り、安全に気を付けて、進んで探検活動をしようとしている。（生活への関心・意欲・態度）
- ・ 探検活動を通して見つけたことや気付いたことを自分なりに工夫してまとめたり、紹介したりすることができる。（活動や体験についての思考・表現）
- ・ 地域には様々な場所があり、多様な人々が生活したり働いたりしていること、それらが自分たちの生活を支えていることに気付き、愛着をもつことができる。（身近な環境や自分についての気付き）

2 評価基準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
① 地域の人々や様々な場所に関心をもってかかわろうとしている。	③ 行きたい場所や会いたい人、してみたいことを決めている。	⑤ 地域には様々な場所があり、多様な人々が生活していることに気付き、自分たちの生活を支えていることが分かっている。
② 地域の一員として、マナーを守り、安全に気を付けて活動しようとしている。	④ お気に入りの場所や親しくなった人々などのことを振り返り、自分なりの方法で表現し、友達などに知らせている。	⑥ 地域に親しみや愛着をもつことができるようになった自分に気付いている。

3 指導計画（14時間）

小単元	時	学習活動	「思いや願いの明確化」、「伝え合い交流する場の工夫」ポイントとその内容	指導上の留意点（・）と評価
まちのことを話そう	1	○自分の住んでいる学区について知っていることを発表し合い、行ってみたい場所や見たいものについて話し合う。	手立て1 思いや願いの明確化 ◇自分の生活とかかわっている場所、人、事柄などについて、友達と紹介し合い、まちについての関心を高める。	・学区の地図（北山・三ツ割方面、中央通・本町通方面）を準備し、学校周辺と自分の家の様子をイメージできるようにする。 【評価①】
学んだんけんの計画をたてよう	1	○安全に探検するためのルールや学習ボランティアの方や地域の方々へのマナー、気をつけることなどを話し合う。 ○みんなで学区探検の計画をたて準備をする。	手立て1 思いや願いの明確化 ◇事前に学区探検で行ってみたい場所や理由を学習カードに記入し、探検活動に対する自分の思いを明確にする。 また、自分たちで探検の準備を進めていくことで、主体的に取り組む姿勢を育てていく。	・探検のルートは、子どもの思いと教師のねらいに合わせながら決定する。 ・交通ルールや、出会う人々に挨拶をするなどのマナーを事前確認する。 【評価①②】
学んだんけんに行こう	5	○中央通～本町通方面の学区探検に行く。 ○北山～三ツ割～名須川町方面の学区探検に行く。	手立て2 伝え合い交流する場の工夫 ◇探検では、同じ場所に行っても子ども一人ひとりの興味や関心、感じ方などが違うことを大切にして、教師が多様な子どものつづやきなどをひろい、子どもの思いを見取っていく。	・探検後、「はじめて知ったこと」「おどろいたこと」「ふしぎだなと思ったこと」の視点で気付いたことを書く。 【評価①②】
		本時 ○見つけた場所やもの、人などについて交流し合い、これからもっと詳しく探検していきたい場所を決める。	手立て1 思いや願いの明確化 ◇探検を想起させて発見したことを伝えたいという思いを高める。 手立て2 伝え合い交流する場の工夫 ◇子どもたちは、友達の気付きを自分の気付きと比べながら聞くようにし、友達の気付きから新たな発見をしたり、自分がしてみたいことなどを見つれたりできるようにする。 ◇学び合うよさや分かり合うよさを実感できるように教師が支援する。 手立て1 思いや願いの明確化 ◇子どもたちがもう一度まち探検をしたいという思いを受け止める。また、個々の思いや願いを生かすために、次回はグループで探検することを伝える。	・「はじめて知ったこと」「おどろいたこと」「ふしぎだなと思ったこと」の視点で発見を準備する。 ・一番に伝えたいことを一人一人が準備しておく。またグループごとに地域の地図を準備して探検を想起できるようにする。 ・気付きを可視化することで、子どもたちが気付きを関連付けたり、比較、分類したりできるようにする。 ・伝え合い交流を、子どもたちにとっての意味付けや、価値付けをすることで、学びのよさを実感したりもっと探検したいという意欲を高めたりする。 【評価③④】
まちたんけんの計画をたてよう	1	○もう1度行きたい場所を決め、グループごとに見たいものや聞きたいことなどを確認し、探検の計画を立てる。	手立て1 思いや願いの明確化 ◇導入では、前時からの意欲を大切にしながら、探検までの学習の見通しをもたせて、より思いや願いの明確化を図る。	・写真や地図などを使いながら探検までの見通しをもてせる 【評価①】
まちたんけんに行こう	3	○グループごとに計画に沿って探検する。 ○見つけた場所やもの、人などについて見たり聞いたりしたことなどをカードに記録する。	手立て2 伝え合い交流する場の工夫 ◇探検中のつづやきなども取り上げながら、教師が価値付けたり、関連付けたりして、気付きを共有していく。探検後には、見つけたことなどを整理していく。	・各探検先と学習ボランティアには学習のねらい等を事前に伝え、細やかな支援ができるようにする。 【評価①②】
まちのことをつたえよう	3	○まち探検で見つけたことなどをグループごとに振り返り、表現方法を考え、伝えたい内容をまとめ準備する。 ○自分たちが見つけたものを友達と伝え合い、まちの情報やすばらしさを共有する。	手立て2 伝え合い交流する場の工夫 ◇グループごとの気付きを全体で共有していく。また、探検を振り返りとならぬおしながら、自分の成長や、町への愛着を感じている子どもの姿を見取り、価値付けていく。 手立て1 思いや願いの明確化 ◇もっと知りたいという思いを価値付け、2学期もまち探検することを伝える。	・探検先ごとに見つけたことをまとめる。伝える相手は、別の探検先に行った友達とする。また、表現方法は、新聞、ポスター、ペープサート、紙芝居、劇など今まで学んだ方法を生かすようにする。 ・子どもたちの今までの気付きは大きな地図にまとめ、まちへの親しみや愛着を育むようにする。 【評価④⑤⑥】

IV 本時の指導構想

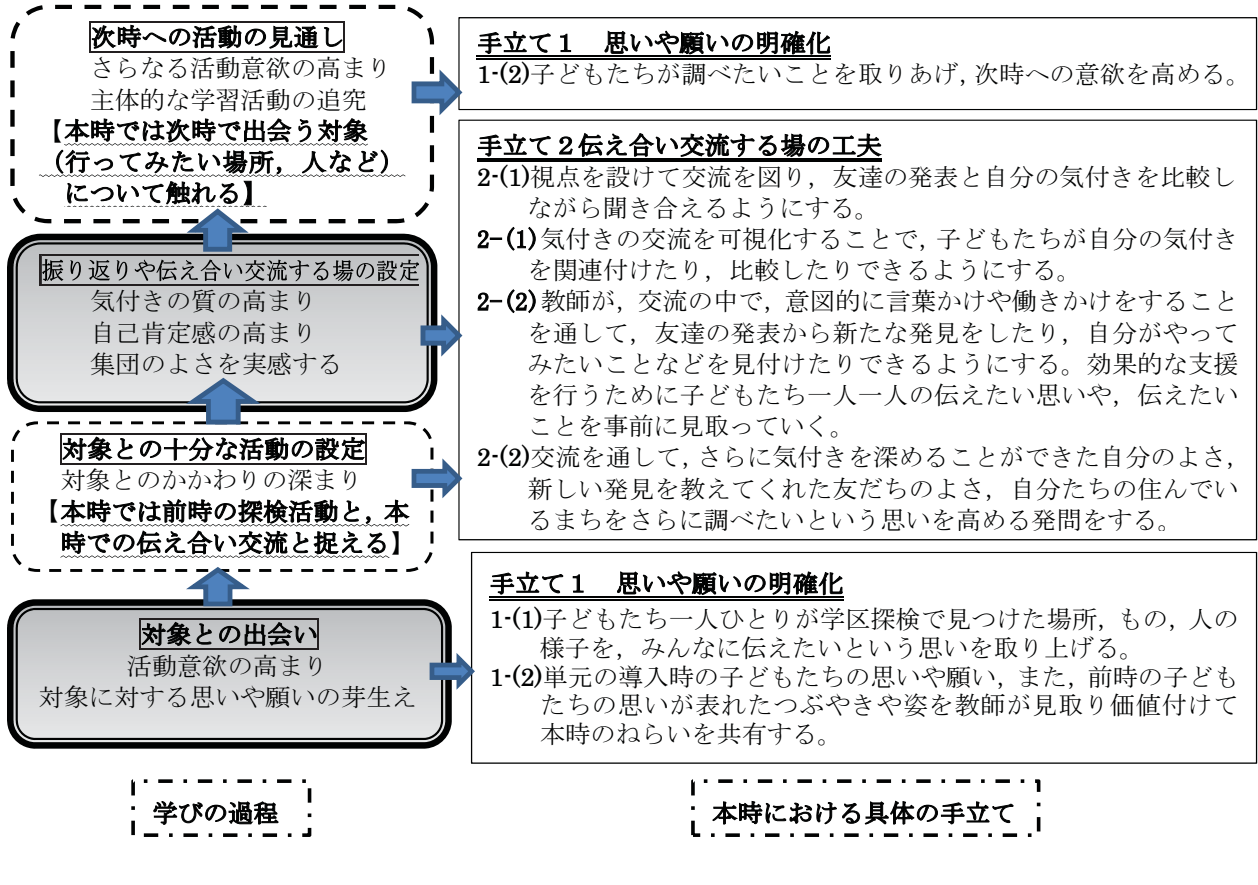
気付きの質を高め、思いや願いをもち続けながら主体的に活動する子どもが育つ授業
—思いや願いの明確化と伝え合い交流する場の工夫を通して—

【本時の目指す子どもの姿】

○まちに興味をもって伝え合い交流する中で、新しい発見をしたり、さらに知りたいと思ったりしながら、自分の気付きを深め、広げることができ、同時に子ども自分のよさや友達のよさを感じることができる子ども。

【本時の目指す授業像】

○交流の視点を設けて気付きを視覚化するとともに、教師が子どもの見取りをもとにした支援を行い、子どもたちが気付きを比べる、分類する、関連付けるなどを通して気付きの質を高める授業。
○伝え合い交流をする中で、まちへの興味関心が高まり、さらに探検をしたいと思いや願いをもつ授業。



V 本時の指導計画

1 目標

○探検活動を通して見つけたことや気付いたことを自分なりにまとめて紹介し、友達と伝え合うことを通して、さらにまちを調べていきたいという思いを高め、次時につなげることができるようにする。

2 評価規準

○発見した場所やもの、人々などのことを振り返り、自分なりの方法で表現し、友達などに知らせている。
(活動や体験についての思考・表現)

○行きたい場所や会いたい人、してみたいことを決めている。(活動や体験についての思考・表現)

3 展開

段階	学習活動	期待する 子どもの反応	時間	研究にかかわる手立て	◇準備 評価
導入	1 本時の課題をつかむ。 ・前時の学区探検を想起して、みんなに伝えたい、みんなから聞いて新しい発見をしたという気持ちを高める。	○探検でたくさんのお宝を見つけたよ。みんなに伝えたいな。 また、みんなが発見したことを聞きたいな。	5	手立て1 思いや願いの明確化 ・単元導入時の子どもたちの思いや願い、前時の子どもたちの様子を取りあげて、価値付けながら本時のねらいを共有する。	◇拡大した学区の地図 前時の学習シート、 本時の学習シート 学区探検の様子を 写した写真
	まちたんけんをして はっけんしたことを みんなに つたえよう				
展開	2 伝え合い交流する。 ・前時の学習シートをもとに、一人ひとりが、「はじめて知ったこと」「おどろいたこと」「ふしぎだなと思ったこと」などを班ごとに伝える。 ・班ごとに伝え合ったことを掲示して、全体で見合いながら交流する。 ・自分の考えと比べながら友達の発表を聞き、同じ気付き、新たな気付き、問いを見つけていく。 ・自分たちが住んでいるまちの様子を知り、さらに知りたいことを発表し合う。	○八百屋さんには、たくさんの野菜がなかったよ。 ○郵便局にはたくさんのお客さんが出たり入ったりしていたよ。 ○～さんと同じように銀行がたくさんあることが分かったよ。 ○友達が自分の知らない場所を見つけていたよ。すごいな。なんだかおもしろそうな建物だな。 ○わたしは八百屋さんに行くとどんな野菜があるか知りたいたい。 ○ぼくは、また銀行に行くと今度は中を探検したいな。	25	手立て2 伝え合い交流する場の工夫 ・「はじめて知ったこと」「おどろいたこと」「ふしぎだなと思ったこと」の視点で、気付いたことや感じたことを伝え合う。 ・班ごとに伝え合い交流した気付きを拡大した学区の地図に、可視化する。 ・班ごとに交流した気付きをパネルに掲示して、気付きを全体で交流する。 ・伝え合い交流の中で、子どもたちが新たな発見をしたり、自分がやってみようなどを見つけたりできるように、教師が気付きを比較したり、分類したり、関連付けたり支援する。	◇班ごとに使用する 拡大した学区地図 ◇3つの視点に合わせた付箋型の気付きカード ○「はじめて知ったこと」「おどろいたこと」「ふしぎだなと思ったこと」を振り返り、自分なりの方法で表現し友達などに知らせている。 (活動や体験についての思考・表現)
終末	3 本時の振り返り ・交流を通して新たに気付いたこと、さらに調べてみたいことを学習カードに書く。 また、交流する中で気付いた自分のよさや友達のよさを見付け学習カードに書く。 ・書いたことを発表し合う。 4 次時にむけての見通し ・学習の見通しを確認する。	○探検をしてみんなの発見を知ることができたよ。 ○友達が自分の知らないことに気付いてすごいな。 ○次はやおやに行くと詳しくお店を見たいな。	15	・交流を通して、さらに気付きを深めることができた自分のよさ、新しい発見を教えてください友達のよさに気付くことができるよう支援する。 手立て1 思いや願いの明確化 ・次回はグループで探検することを伝え、一人ひとりが調べたい場所を決めることができるようにする。	○行きたい場所や会いたい人、してみたいことを決めている。(活動や体験についての思考・表現)